

●井筒俊彦の日文著作と英文著作（朱字）

『アラビア思想史』（1941）*1975年『イスラーム思想史』

『神秘哲学』（1949）*1978年再刊★

「自然神秘主義とギリシア」

「神秘主義のギリシア哲学的展開」

『マホメット』（1952）*1979年『イスラーム生誕』

『ロシア的人間』（1953）*1978年再刊

『言語と呪術』（1956）★

『コーラン』邦訳（1957-1958）*1964年改訳

『意味の構造』（1959）*1966年再刊

『クルアーンにおける神と人間』（1964）★

『イスラーム神学における信の構造』（1965）

『スーフイズムと老荘思想』（1966-1967）*1983年再刊★

『東洋哲学の構造 エラノス会議講演集』（1967-1982）

「老荘思想における絶対的なものと完全な人間」

「禅仏教における自己の構造」

「天空の飛翔——神話創造と形而上学」

『存在の概念と実在性』（1971）

『禅仏教の哲学に向けて』（1977）

モッター・サドラー『存在認識の道』邦訳（1978）★

『ルーミー語録』邦訳（1978）

『イスラーム哲学の原像』（1980）*1991年『超越のことば』

『イスラーム文化』（1981）

『意識と本質』（1983）★

『意味の深みへ』（1985）

『コスモスとアンチコスモス』（1989）

『意識の形而上学——『大乘起信論』の哲学』（1993）★

●英文著作の位置づけ

『言語と呪術』→方法論 「外延」と「内包」 気と息

『意味の構造』から『イスラーム神学における信の構造』まで

→『コーラン』の意味分析

『スーフイズムと老荘思想』から『禅仏教の哲学に向けて』まで

→キー・コンセプト抽出による比較東洋哲学

●井筒俊彦の解釈学（生没年・人名表記は『イスラーム哲学の原像』より）

「神の言葉」の解釈学

ムハンマドと『コーラン』

イブン・スィーナ（アヴィセンナ）とイブン・ルシド（アヴェロエス）

スフラワルディー（1155-91）とイブン・アラビー（1165-1240）

モッター・サドラー（1571-1640）

サブザワーリー（1797/8-1878）

「神秘主義」の起源

バスターミー（スーフイズム）、シャンカラ（不二一元論）、空海（真言密教）

→イスラーム、ヒンドゥー、仏教の神秘主義的な展開（8世紀から9世紀にかけて）

●井筒俊彦の対位法的思考

憑依（シャマニズム）と哲学、プラトンとアリストテレス、アイデアと質料

→『神秘哲学』

イスラーム以前とイスラーム以降→『マホメット』『意味の構造』

論理と呪術、「外延」と「内包」→『言語と呪術』

絶対者と人間、無限と有限→『クルアーンにおける神と人』『超越のことば』

スーフイズムとタオイイズム、一神論と汎神論（一と多）、内在と超越、存在と本質、老子と
莊子→『スーフイズムと老荘思想』

有神論と無神論（ヒンドゥー教と仏教）、正名と無名（儒教と道教）、禪と密教（本質否定と
原型的な本質）→『東洋哲学の構造』『意識と本質』

●媒介者

プロティノス→プラトンとアリストテレス

預言者→イスラーム以前とイスラーム以降、絶対者と人間

意味（原型的なイマージュ）→論理と呪術、「外延」と「内包」、表層意識と深層意識

イラン→イスラームと東洋思想、存在と本質

真如、如来蔵、アーラヤ識→東洋哲学の共時論的構造化

●東方哲学

折口信夫の「憑依」、鈴木大拙の「空」、井筒俊彦の「光」

神秘哲学にして東洋哲学（著作集第1巻と第9巻＝日本語著作としては最終巻）

空海と道元、宗密と道元